

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400030		
法人名	(株)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい稲荷 2ユニット共通		
所在地	裾野市稲荷6-2		
自己評価作成日	令和4年 7 月 18 日	評価結果市町村受理日	令和4年 10月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和4年 9月 23日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍が続き利用者様を外に連れ出す楽しみは一切無かった。その為に施設内での楽しみやADL低下を防ぐ為のレクレーションの強化に力を注ぎました。また、看取りに特化した表彰も受けることができた。新しい取組や改善に力を注いだ2年でした。IT化科学的介護導入により利用者様への支援の目線が変化し出した事、地域居宅ケアマネの困難ケースの受入れ、職員が働きやすいように多様な働き方取組では妊婦の方や障がい者雇用にも力を注ぎました。今後、介護職員が減少して行くうえで課題は山積みですが困難と一緒に乗り越えて行けるチーム作りが出来ている事業所である。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅環境に立地しており、ホームの隣の畑では季節ごとの野菜が栽培され季節感が味わえる。また近隣の方が収穫した野菜を持ってきてくれ、調理をして楽しんでいる。コロナ禍で外出ができなかったが、天気の良い日には敷地内にある人工芝で横になったりして過ごしている。近隣を散歩したり車で近くをドライブするなど、感染症に留意しながら気分転換に少しずつ外に出かけられるように努めている。日常生活において利用者に対して「ダメ」という言葉は使わず、声掛けは相手を思いやるような言葉に変え職員同士で意見を出し合いながらケアに努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に会社理念、事業所理念の唱和している。 全職員が理念の元、仕事に取り組んでいる。	理念を浸透させるため、申し送り時に唱和をしている。他事業所内の会議で、チームについての事や事業所として足りないものは何かを話し合っている。また職員との面談で、理念についての確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する地域の方と畑越しに交流をしている。時折、野菜や新聞を好意で届けてくれる方がいる。 散歩時に地域の方との挨拶、話しかけて頂ける間柄になっている。	近隣住人の方が、畑で作った野菜や汚物処理に使うための新聞紙を玄関先に届けてくれる等交流がある。マスク着用での散歩でも挨拶を交わし名前や顔を覚えていただき、仮に迷子になった時などに協力して頂けるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域サロン、調整会議へ積極的に参加をしている。コロナ禍で困窮している地域のパン屋と協力して利用者が書いた絵がパンになる企画を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月に裾野市民体育館を借り、約3年振りに開催する。看取り同意書を頂いているご家族に絞り医療連携、行政と密に意見交換を行った。	コロナ禍で開催ができなかったが、6月には広い会場で感染症対策をして開催をした。家族や行政の参加があり最近の報告とテーマを決めて意見交換を行った。	地域推進会議録を作成し家族や関係者へ報告しているが、希望やクレームがあった時、内容とその後の対応まで記載することによりサービス向上に活かすことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告、クレーム要望などは即時報告し、一週間以内に詳細説明に伺っている。 家族、地域、利用者支援、全般の事業所運営に理解をいただいている。また、行政より医療介護連携会議役員の依頼を受けている。	地域推進会議に参加したり、地域ケア会議で出された困難ケースを受け入れている。クレームなどで困ったことは相談するなど、協力関係が築きやすい環境になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回、事業所内研修を行っている。 スピーチロックの対応、通報訓練等実施している。	年間計画に沿って年4回研修を行っており、常に職員同士で話し合いの場を設けている。 ベッド上で動いてしまう利用者に対して四点柵は使用しない等の対応策を常に話し合い、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止についても年4回、事業所内研修実施。 勤務後に職員のストレスケアを行ったりアンケート調査も年2回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度についての研修等で学ぶ機会はあるも、現在は対象となる方がいないため、活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明をし、理解、納得をしていただいている。 入居後も不安、疑問点など常に対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に普段のご様子の説明。ご要望、ご意見をお聞きしている。 利用者様からのご要望等も書面にて開示している。	コロナ禍により面会ができない時でも、面会の要望の際は、外で個別の面会場所を設け支援している。家族からの意見を反映し、看取りの際は非常口から施設内に入り居室に行けるようにした。家族の意見は書面にて開示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロア会議、全体会議にて意見交換をしている。	面談時に意見を聞いたり、法人全体でアンケートを取った結果から事業所として弱い所を会議で話し合っている。職員より現在困っている事を聞き取り福祉用具の導入等法人に要望をしたり、働きやすいようなシフトを検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度に基づき、職員の評価を行っている。必要に応じ、面談の実施。多様な働き方についても職員意見を傾聴し改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、社外研修への参加できるような勤務の考慮。リモート研修が増え、参加がしやすくなってはいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の地域調整会議への出席し市内同業者との交流、情報交換をしている。 営業活動も積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に24時間シートの活用をし、本人の生活習慣、ご要望を引き出している。 ご家族へお尋ねすることもあり。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての不安やご要望について詳しくお話を伺っている。 入居後の生活をこまめにお伝えするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活リズムを崩すことなく生活できるよう事前のアセスメントを行い、支援している。 自宅で馴染みのあるものを居室に持ち込んでいただいたりなどの協力をして頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理のない生活支援。職員と一緒に調理や衣類の片付けを行っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の緩和に伴い、出来るだけ面会をしていただけるようご家族とは連絡を取り合っている。 受診の対応をしてくださるご家族もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過により頻繁な外出は減っているも、ご自宅へのドライブやご家族との面会時間などを大切にしている。	コロナ禍により馴染みの美容院やお店に行くことができないが、家族や馴染みの方とは電話で話をしたり写真や動画を撮影し送ったり、相手からも葉書きが郵送される等関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活全般の家事や利用者同士が役割をもてるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去後も家族が施設に来てくれたり、新聞紙等を届けてくれたりすることがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話も傾聴を欠かさず、また記録へ残すようにしている。アセスメントや計画書に反映をしている。	日常生活の会話から、本人より意向を聞き「会いたい」願望が強い時には家族に連絡をし面会に来ていただき、好物の物を持参してもらっている。会話が困難な時は、表情や仕草からアセスメントしてくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係機関から情報を聞き、生活歴、生活環境の把握をしている。 また、日々の何気ない会話からも情報を聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関り、状態の変化を記録に残し、申し送りにて職員同士共有をしている。細かな気づきを身に着けるよう職員教育をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を伺い、計画書に反映している。 会議にてモニタリング、カンファレンスの実施をしている。	日常生活の様子や会話からアセスメントをし、家族に伝えると共に、アセスメントから得た職員の思いも伝えながら家族から意見を聞きカンファレンスを実施し計画書を作成し、会議にて定期的に確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPad上にて個別に記録を残している。 毎日の朝夕礼での報告、会議にて意見交換を行っている。ケアマネ自身も現場支援を行い情報習得に力を入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の思いに沿ったケアをしている。 また、家族には細かな内容まで報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は地域のサロン、お祭り、幼稚園などの交流が盛んにあった。現在は、敷地内の散歩や日光浴をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医との連携は密に行えている。24時間オンコール体制、往診も可能。夜間も速やかに対応をしてくれている。	入所時、家族に嘱託医について説明をして選んでもらっている。入所前からのかかりつけ医を希望された時は、家族での対応をお願いしている。可能な場合は職員が同行をしている。家族対応が難しいときは相談をしながら対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が介入してくれているため、日々の情報をその日のうちに伝えることができている。また訪問看護師による研修も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報は素早くお伝えしている。退院前カンファレンスは家族と一緒に同席し、関係作りを築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を傾聴し、お看取りをさせていたが、現在4名の方がお看取り対応となっている。家族、医療と連携を取りながら、支援をしています。カンファレンスの際、ご家族にも参加して頂いている。	入所時に説明をして本人や家族から意向を聞いている。身体状況が悪化した時はその都度家族に連絡をして意向の確認を再度しており、終末期には主治医から説明をもらい、事業所でできることを説明し家族と今後について話し合い看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や緊急搬送時の手順の研修を社内で行っている。ほとんどの職員が参加をし、終了証を持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回、風水害訓練を年1回行っている。通報訓練や消火器使用訓練、会社組織でのBCP訓練も行っている。	地震や火災、風水害の訓練を行っている。BCPのマニュアルも作成しており、訓練時には確認すると共に備蓄品保管場所の説明を職員に行っている。災害時には駐車場を開放することを行政や自治会に伝えている。	災害発生時、BCPのマニュアルを基に訓練を行い、備蓄品場所のチェックを行っているが、場所や物品の一覧表作成などで職員がより一層把握できる工夫に務めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴時には特にプライバシーの配慮には十分に注意をしている。 言葉かけをし支援に入るようにしている。大きな声で排泄の話などしない様に心掛けている。	排泄時にはドアを開放したままにせず、大きな声を出さないように留意しており、不適切なケアや言葉があった時は職員同士で声掛けをしている。「ダメ」の声掛けはせず、声掛けには相手を思いやる言葉に変えるケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけの工夫や言葉かけをし、同意を得てからの支援を心掛けている。多くは食事の要望だが、期待にお応えしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員と一緒に作業を行い、活動を促している。 体調に合わせ、午睡や静養の対応も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア、爪切り、髭剃り等の支援をしている。 その方に合った身だしなみの支援にも心掛けている。化粧水、乳液等にこだわりのある利用者様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理や盛り付けを行ってくれる利用者様や、洗い物は私の仕事と率先して行っ下さる利用者様もいる。	施設内にある畑で野菜を作り、調理のできる部分は一緒にやってもらっている。嚥下状態に合わせて食事形態を変え、食事量が少ないときは補助食品やムース食で対応し、食べることの楽しみを持ってもらうよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量の把握をし、支援をしている。その方に合った、食事の形態に合わせて提供をしている。常食からなめらか食までの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科衛生士による指導を受けている。 口腔衛生管理体制加算を算定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、適したパッドの使用している。 重度化により難しくなっているも、試行錯誤をし排泄の支援をしている。	排泄パターンを把握し、時間や仕草でキャッチしてトイレに誘導することにより、リハビリパンツから布パンツに移行している。トイレにて排泄ができる間は職員二人で移乗するなどの対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や適度な運動をし取り組んでいる。 主治医の指示の元、下剤のコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を選んでいただいたり、ゆっくりと入浴ができるよう配慮をし、入浴を楽しんでもいただける工夫をしている。 重度の方にも、職員2名対応にて安全に浴槽に浸かっている。	入浴剤を使用し楽しんでもらっている。季節には近隣の住人からゆずを頂き、季節風呂を楽しんでいる。重度になっても職員二人で対応し入浴を楽しんでもらっている。拒否がある方には話術で誘導し入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせた午睡や静養の支援。 褥瘡をつくらぬよう、エアーマットの使用や2時間おきの体位交換を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	持病、現病の把握をし、服用している薬の効能を理解。副作用なども薬情を確認している。薬局との連携も密に行っている。 服薬方法や飲み込みについても医師へ相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の今まで培われた人生、らしさを大事にしている。 一人ではなく、一緒になり取り組むことで達成感の共有をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、活発な外出支援は行っていない。 散歩や外気浴、ドライブ等の支援を行っている。建屋東側に人工芝を設置した事で日光浴や寝転んだり快適に過ごしている。	コロナ禍で外出が難しかったが、コロナの状況や感染症に留意しながら、近隣を散歩したり施設内の人工芝に座って過ごしている。家族から季節ごとの花が咲いたと連絡をいただき、ドライブしながら見に行くように少しずつ外出ができるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が好きな物を自分で選んで購入できるよう家族に理解をいただき、立替金で支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で電話にてお話をする機会や、手紙でのやりとりは盛んに行われている。字の書ける利用者様は手紙をご自分で書き、難しい利用者様は代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、掲示物を見える場所に飾っている。最近では、YouTubeの活用をし、童謡、唱歌などを流しゆったりとした時間を過ごせるよう工夫をしている。	デイルームに季節ごとの飾りつけをして季節感を感じてもらおうようにしている。音楽を流し、ソファーやチェアに座り横になりゆっくりした時間を過ごすようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個々に分かれているため、独りの時間を作る事もできている。反対に気の合う方同士と一緒に座れるよう席の配置に考慮したり、ソファの配置もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ってきていただいたり、写真を飾ったりしている。居室内の動線の確保や、ベッドの位置の配慮をしている。	入居時には馴染みのある物や本人が使っていた物を持参してもらっている。本人が過ごしやすいような位置にベッドを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線に不要な物は置かず、妨げにならないように注意している。トイレや、浴室、本人の居室もわかるよう表札の掲示をしている。		